明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第貳卷
第八號

明治三十七年八月二日發行

我が好む川柳（堺枯川）……一
八月のはなごよみ……五
善き家庭と謙遜……六
キヤベヂイの話（久田二葉）……七
洋食調理の衡量について（綠亭主人）……一〇
戰爭と直情吐露（曲川生）……一二
英國の家庭教育（小說）（渚山譯）……一六
四　克己心と自重心　五　貧者と富者
六　アングロサキソン民族
食卓と料理……二六
○ビーフステキ　○オムレツ　○夏季の飮料
○キヤベーヂ
二葉園藝（エデンの花守）……二七
○家庭と花　○三片の下葉　○八月の園藝　○蝸牛の驅除法
『避暑』羨むべき乎……三〇
新刊書籍
編輯便り……三二

由分社

東京市麹町區中六番町十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲本紙は婦人の味方となり時に社會の壓制と戰ひ時に婦人の鞭撻者ともなる
▲本紙は婦人を理想境に導かんことを期すれども尙現社會を忘るゝことなし
▲社會の根底は家庭に家庭の中心は婦人にあり本紙此點より社會改良を期す
▲本紙は婦人界を進歩せしむる根底の女子教育にあるを信じ此方面に盡力す

婦女新聞

毎週 月曜

定價一部三錢
三ヶ月卅七錢
半年七十二錢
全國無郵稅

▲新しき婦人問題の論義を聞かんと欲する人は必ず本紙に來らざるべからず
▲婦人男女學界の出來事を知らんと欲する人は必ず本紙を讀まざるべからず
▲本紙は發行以來滿四年を經て今や漸く婦人界の一勢力と見らるゝに至れり
▲夫人令孃女敎師女學生にして本紙を讀まざる人は時勢に後るゝの悔あらん

東京市牛込區東五軒町四一
發行所 (電話番町千三百六番) 婦女新聞社

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料 特別一頁七圓、普通一頁五圓

注意

一、本誌は毎月一回(二日)發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。但し郵劵代用の節は五厘切手にて一割増の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人はすべて無指定の事。

明治三十七年七月廿九日印刷
明治三十七年八月二日發行

發行兼編輯人 東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地 西村惠治郎
印刷人 東京市京橋區日吉町十番地 中村彌助
發行所 東京麹町區中六番町十番地 由分社
大賣捌所 上田屋 良明堂 東京堂 東海堂

印刷所 東京市京橋區日吉町十番地 近藤商店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

我が好む川柳

枯川生

巣鴨みやげに何が書く積りでありましたが、これはモウ大がい平民新聞に書き盡しましたし、外に少し考へた事もありましたが、此暑い中に理屈づめでもあるまいと又考へなほして、何ぞ晝寢の伽になる樣なことでもと思うて居た處に、内外出版協會から『川柳名句選』といふ小冊子を送つて來ました。是れ、是れ、是れに限ると直に題目は一決しました。

元來、私は非常に川柳が好で、青梅を嚙むが如き峻烈極まる警句、水蜜桃をしやぶるが如き甘露したゝる妙句に會へば、殆んど我を忘れて愉快痛快を叫ぶのであります。其代り私は又、駄句惡作が大の嫌で、玉石同架の本など見ると、決して其まゝ見過す事が出來ず、必ず點を打つか棒を引くかして、石を罵り玉を賞せずには居られませぬ。尤も、梅の如し酸く、桃の如く甘くなくとも、香の如く幽かに、煙の如く淡きものは、亦おのづから其趣味を感じます。

そこで此『川柳名句選』も、兎にかく一應、初から終まで目を通さずには居られぬ。平民社に通ふ電車の中で、色鉛筆を片手に持ち、蚤取眼で讀んで見て、拾ひあげたる玉の數々左の通り。然しながら是れが果して眞の玉やら石ぢややら。故に題して『我が好む川柳』と云ふのであります。先づ順々に御披露に及びます。

うろたへた蟬、熊坂がすねで鳴き

『松の木なんどの立つたる如く』と云ふ剛の者の形容詞を思ひ出さねば、此句はおかしくなりませぬ。然し謎々めいた所が少しイヤになる。此句がおかしいと云ふよりは、此の昔の形容詞の思ひきつて大袈裟に出た所がおかしいのです。

南瓜盜人、雪隱をひきたふし

是れは寫實の景色、妙を極めて居るではありませぬ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

か。盗人もクス／＼笑ひながら逃げて行き、其家の人々も翌朝起きて見て吹き出したかと思はれる。

　くらべッこして白瓜を一つ買ひ

何等微細の觀察ぞや。こんな風にジッと脇から川柳子などが見て居るのだもの、細君たる者、豈に何とかせざる可けんや。

　煤はきの顔を洗へば知つた人

顔を洗ふまでは見違へて居たと云ふ丈の事なれど、眞黒々の其の趣きが見えぬでも無い。

　寝そびれてイッソの事に食を食ひ

『イッソの事に』で何が活きて居る。そして、それが『飯を食ひ』といふ意外な然も實際ありそうな事だから極めておかしい。

　總身から漏る炎天の墓手桶

是れも實景。『總身から』で活きて居る。

　それ云はぬ事か抱いてゝダアラダラ

一度讀んだ丈ではチョット何の事やら分らぬかも知れぬ。「細君、御亭主を罵つて曰く」と前文を附けたら、恐らく何人も笑はずには居られまい。それでも若しやの念の爲に申す。ダアラダラは小便の音也。

　爺と婆があつたとさ嫁こまり

『とさ』が此句の命。昔話どころの冗談ぢやない、嫁は一生懸命也。

　姑でも死ぬか喜びがらす鳴く

　あつらへた樣に姑頓死する

『喜びがらす』『あつらへた樣に』の二句が善く嫁の感情を寫し出だして居る。此くらゐ手きびしく行かなくちや面白くない。

　添乳して棚に鰯がござりやす

是亦『田舍の女房、今戻つて來た亭主に告げて曰く』といふ前文か入用かも知れぬ。

　叱られた下女膳立の賑かさ

盛んに皿小鉢に當るを想ふべし。それを『賑かさ』と云つた所が嬉しいではありませぬか。

　女房を叱りすごして飯を炊き

此飯、噴飯せざるを得す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

居候、一つ巴にコロリ寐る
『一つ巴』でサモ寂しそうな所が見える。

こつそりと肝癪おこす居候
冷飯の床に同情あり、同情の中、亦おのづから冷飯なきを得ず。

庭鳥がアクビをすると聾いひ
考へたものですな。其考への行き方が餘りおかしいので吹きだしたくなる。

あとの嚔を待つて居る妙な面
凡そ此『妙な面』くらゐ、間の拔けた、氣のきかない、馬鹿々しい面はありますまい。

人にいふ意見を聞けば、一人前
人間といふ奴、實に滑稽な動物ですな。

寐そびれた夜は藏を立て家を立て
一萬圓拾うたと假定しての事でせう。

高張の骸骨になる雨後の墓
褌を輪袈裟にかける石地藏
いづれも寫實の妙を極めて居る。

談義僧のり地の時は眼をふさぎ
談義は猶ほ義太夫の如き也。

そんな事ぞんじませぬと鶴を折り
なぶられる顔へ蓋する木地の盆
抱いた子に叩かせて見る惚れた人
是等は只微笑して可也。

幽靈は握りこぶしで引きもどし
生きかはり死にかはり出る下手役者
切腹をやめて見て居る摑み合ひ
田舍芝居の光景、見るが如し。

奥家老みんな娘の氣で叱り
實は親切で、そして八釜しやの、無遠慮な御家老が出て來る樣。

無念骨髓、盗人の糞さらひ
面白い處を考へたものですな。『無念骨髓』と來て、それが『糞さらひ』だから、おかしくて堪らない。

身共等が又きんしたと禿いひ
當世に反譯すれば『我輩が又來てよ』と云ふ事になる

のだらう。

毛の赤い禿一たん坊主にし

可愛そうにもあればおかしくもある所が頗る妙。

湯殿から忘れた時分、嫁は出る

其の長きこと想ふべし。

風に笠とられぬ樣に口をあき

帽子を取られぬ樣に、歯を食ひしばつて頭をふくらす場合もあります。

畳屋が野暮で簞笥をヒヨイとのけ

此句が分らぬほどの人は自から苦勞の足らぬ者と思ふべし。畳屋と同じく野暮也。

糸巻の向ふに亭主をどつて居

『をどつて居』とは餘まり殘酷な。然し糸の一くりを兩手に掛けて馬鹿な面をして居るのは、餘まり氣の利いたものでも無いテ。

とんで來る蚤を見て居る病あがり

川柳の中にもコンナまじめなのがある。そして其光景が躍動して居るから有がたい。

（四）

あゝ大分澤山御披露に及んだ。跡は許なしでお目に掛けます。

正月は隣からでもシヤチコばり

もう幾つあがると雜煮きゝあはせ

歌がるた人と云ふ字に手が五つ

井戸繩の縫上をする五月雨

藤棚へ隱元豆が推參し

西瓜盗人ねじ首にして逃げる

風鈴の下に一文世をのがれ

合の手に舌打をするきり〳〵す

父さんと寐習へといふ腹になり

お仕舞と斷つて子は箸を置き

鐵漿の口を四角に女房あき

美しさ叱られぶりのいゝ女房

洗ひ髮、漬菜の樣にしぼりあげ

客を切る樣に數へる料理人

討死を日送りにする講釋師

俄雨冬の蘇鐵の歩くやう

病人を取寄せて見るはやり醫者

西瓜賣、首實檢の樣に見せ

丸藥で緣側の日を追ひまはし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

粉薬をふくみ銅壺へ指をさし
重箱の隅でとゞめを芋さゝれ
柿の皮むいた自慢に立つて見せ
引張るとムカゴ隣へ皆んな落ち
呼ばれても二針三針縫つて立ち
卒培婆小町といふなりでのりやのり

是れだけでは『川柳名句選』の又選をした様なもので、其編者に對し甚だ相濟みませぬ故、最後にチトばかり提灯を持つて置きます。扨此書は、此頃川柳復活の兆のあるに乘じて現はれたもので、先づ善い選と云はねばなりませぬ。駄句も多いが好句も多い。私か駄句として棄てた中にも、人から見れば好句が澤山あるかも知れぬ。それから猥褻な句を一切取つて無い所がサスガ明治の選でありませう。それでも二句ばかり困つたと思ふのが目につきました。それは多分編者が消しわすれたのでありませう△再出の句も三つ四つ見つかりました。何にせよ、こんなものを味ふ事は、人の心を長閑にし、裕長にし、寛大になるに於て大効があると思ひます。

はなごよみ（八月）（二葉）

◉秋の七草（何事のかぶりかぶりぞ女郎花＝一茶）

露にたわめる紅白の萩が花、鮮かに可憐瀟洒の女郎花、嫋々として優しき大和撫子、豪宕にして紅ひ深き葛の花、秋風に靡かんとして叢中都を拔く芒尾花、香氣闌たる藤袴、研にして艶ならざる桔梗こそ日本島特有の花として、山上憶良が萬葉集に歌ひし「秋の野に咲きたる花を指折り、かきかぞふれば七草の花」なりとぞ。

◉庭園の花（秋風や蓮をちからに花一つ＝逸名）

其の美を筆にて盡くされざれば、今は唯だ色によつて花の種類を分つ。

先づ主に紅ひなるは曇華、木槿、秋海棠日々草に鳳仙花バルサム、夏水仙、花消夫藍、紅蜀葵に松葉牡丹などにして、白を主とせるは木槿、厚皮香、睡蝶花、曼陀羅華、夏藤、筑紫根草に夜會草、などなり。また黄を主とせるは黄蜀葵、火炭母草、天神花、タケテス、アブチロン、チベロース、ヘリヤントースなどにして紫花は翠菊に於て見るのみ。

◉野の花（小戻りや水引草の裙の露＝素玩）

白にして形態名に背かざる虎尾草、深山に獨り高うする白鬚草、青松白砂の間に咲きこぼろる濱菊、最も長高き大蓼、水邊綠葉の間に紅ゐを點ずる金線草、可愛らしき黄花の弟切草、白くして高潔瀟洒風致楚々たる茶花など、皆秋の野の錦地に添ふ花ならざるはなし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

善き家庭と謙遜

先以て相共に忍耐し謙遜つて而して互に敬愛すると云ふ事は、新たに結婚せしものが最も幸福なる且つ愉快なる新家庭を經營するの基礎ではあるまいか。蓋し多くの人々は多少の秘密があるのであらう、一見又は會話位で、其人の胸裏や何や蚊を誤解無い樣に洞察することは、到底普通の人に望むべき事ではあるまいかと思ふ。

現今の結婚は不完全ながらも双方多少相知て結ぶではあらうが、其結婚したる若き男女が各自の意志や習癖などを知合つて、而して其處に眞に圓滿な夫婦の愛情なるものが生ずる迄には樣々の變化や經路やがあるであらう。夫で吾等が謙遜して相互の過失を忍び、總てのこと可成的穩やかにするならば、遂に共に其一種の助力を認めて愉快なる理想的調和の生涯に進む事が出來るのであらう。左れど若しも其一方が他の欠點を責め或は我意を張り不平を鳴らし、暴慢の語を吐くなぞ聊か謙遜の德を忘るゝに至ては、遂に双方相亂れて悲む可き境遇に終るかも知れないのである、吾々が幸福なる生涯に移るの要素は實に少さい樣な事情から成立するもので、決して巨萬の富でも、ゑらい名望でも亦容貌でもあるまい。只夫婦の間に美くしき温かなる愛情の存することであらうと思ふ、其一種の愛情は相互の謙遜と、又夫より來る敬愛とに基くものではあるまいか。

謙遜と同情、是等は丁度春雨の氷結せる地上を濡す樣なもので、一滴々々其初は何か力もない樣ではあれど、遂には全地を融和して青草綠樹を繁茂させ、蕾や花やを飾らしめて、又善き果をも結ばしむるが如きであらう。

夫で新に出來た家庭には、謙遜と同情とが必要欠ぐ可からざるもので、夫さへあれば漸次に總てが融通調和して、遂には今の社會が最も要求して居る無言の大説敎即ち所謂「スウイトホーム」なるものを世に示すことが出來るではあるまいか。（有田九皐）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

甘藍の話

二葉生

○日本の隅から隅迄栽培せられ、誰にも嗜まれ、見事に感せられる此蔬菜に就いて、作る人、喰ふ人の爲めに少しく語らうと思います。

○甘藍（此の英名を訛つてキャベツと普通に申して居ります）は上品な美味な蔬菜でありまして、其料理法は種々あるばかりでなく、國々の習慣や甘藍の種類に依て異ひますが是を用ひぬ所はありません。

○通常球葉種は肉類の添品に、縮緬種は肉汁に混せて用ゐます。ドイツやフランスでは、球葉種を細く切り食鹽を混せてシユウクルートにすることが大變盛んで、ドイツの如きは毎年歐洲各國へ多大の輸出をするそうです。又赤紫色種も酢漬を初め、種々の料理法に依て嗜まれます。

○こゝで皆さんに望むのは、皆さんは此の蔬菜を買はれるなりお作りになるなりして、それを形式一點張の料理に依つてお用ひになるより、それ／＼御嗜好の存する所に從つて、特種の料理をして御嗜食を願ひたいのであります。さて、

○こんなよい蔬菜でも、素を尋ぬれば佛國中部及び北部の野生草でしたが、漸々改良を加へて遂々今日の良種を出すやうになりました。

○これが日本へ始めて傳來ましたのは、蘭人が長崎へ齎したに疑ひありせんが、這は確然分つて居りませぬ。しかし早くから傳つて居たことは間違いない證據に、大變日本の風土に慣れて居ます。が、北海道奥羽等の氣候が最も適したと見え、非常に立派なものを産します。元來乾き過ぎぬ温和な氣候によく育つので。

○普通に甘藍と申しますのは、嫩芽嫩葉が卷縮んで、橢、圓、扁圓などの球狀を作りまして、それが大きくなれば一個の球葉で一二貫匁もあるのが出來て、實に立派で見事なことは御存じの通りです。佛國では此球葉をシユー、ポンメ又はシユー、ガピスと申して、盛に栽培嗜食されるそうであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○日本の葉菜は纖維が多くて肉が薄くて剛いのが欠點でありますが、甘藍は軟くて肉が厚くて纖維が無くて、滋養分に富んで居る上美味てすから、實にお誂向きの蔬菜であります。

○しかし栽培が盛んになるほど變種が殖えて、今の所では二百餘種もありますから、初めて栽培する方は其撰擇に困られるであらう。殊に各國でも盛んに栽培するので、日本のやうに何もかも輸入で挿しまくる國は、種子屋迄が英國米國から輸入した種子を英名や米國の方言の名を其儘目錄に掲げるかと思へば、佛蘭西獨逸から輸入したのもヤッパリ其地の國名の片假名を目錄に行列させるから、買ふ人は誤つて異名の同品種を買い込むやうになりますから、御注意肝要。

○で私は今、なんと云ふ種類が良いと云い切れぬのであります。尤も有名な種苗屋の目錄に就いて、どれが何んな地面によいと云ふ位は、いづれ二葉園藝欄でゝも申上げましやう。

○一體見れば早、中、晩の三つに分け、更らに各々の

中で圓球、楕圓、扁圓球の三つに分けます。又、色によつて紫色種、赤色種、綠色種に分數ることが出來ますと同時に、寒氣に適するもの、温和の氣候に適するもの、乾きに堪ゆるものとの三種類もあります。そうして全體を總括つて更らに平葉種と縮緬葉との二大別をして居ります。若し夫れ、どんな形、どんな色どんな性質の種類がよいかと云ふことになりますと、其の地の氣候と用ゐる人の嗜好とに依ります。

○さて此の見事な甘藍の種子を播く時節は、其の地の氣候に依て異いますが、東京地方では九月中旬が最も良いと云ふ話、之れより寒い所は少し早く、温い所は少し遲く播くとそれで釣合が取れます。

○餘り早く播くと、葉が球狀になり難くて花が咲き易く、晩く播くと、球葉は大きくなるが、生長が遲れます。

○種子を播くには濕り過ぎず、乾き過ぎぬ肥えた土壤を選び、耕し均らして平坦になれば、三尺四方に二匁位の割合に種子を下すのであります。若し古い種子ワ

ルイ種子なら下す割合を多くすることです。蒔き終つたら細い土を薄く敵ひ、如露などで水を注ぎ、藁類で覆をして濕りを保たせ、其上鳥や小兒の徒を防げば更らに妙です。

○苗が生えて三葉位になると、そろ〳〵第一回の移植をしなさい。その時に葉柄の長いものや葉の開き過たやうなのは拔き捨てねばなりません。可愛さうだがそうゆふのはとても球葉にはなりませんから。

○此の移植をする時は矢張苗床のやうに平にし、少しの肥料を施ねばなりません。そうして苗を三四寸四方に一本づゝ植付るのがよい。五六葉に成長しても移植ぬのは宜敷ありません。さて是れが濟んで三週間餘り經つと更らに第二回の移植を第一回の時と同じやうにして苗を選び、土地も整理して五六寸四方に一本づゝ植付るのであります。これも濟めば、

○本植の一等大切な時期になります。これは成べく十一月の末か十二月の初めに、南方を向く肥えた土地にやるとよう御座いますが、來年の春にされてもたいしたことはありません。

○本植をされぬ土地を撰ばれたら、豫め、厩肥、堆肥、のやうなものをどッさり施して耕耡し、甘藍の大小の種類によッて、畝線を一尺五寸か二尺に劃切て、其の中央に凡そ二寸位の深さに溝を堀り、一尺か一尺五寸宛隔て灰を二握程宛配ッて其の下の土と攪き混せ、そこへ苗を植るのであります。斯樣にしますと穴ばかり堀ッて植ゑたより寒氣に害されぬさうであります。又、灰を土に混せたのは、一面には肥料にし、一面には蟲害が少いと云ふ實驗に基くのであります。

○此の仕事が濟むと暫くは其儘にして、唯だ時々草などの害になるものを除けば宜敷いです。それから雪の消えるのを待ッて、耘つてやり水肥も時々やると五六月には盛んに球葉を結んで、それは日本の他の蔬菜に見られぬ立派な見事な觀を呈します。

○右のやうにするのが正則の栽培法ですが、庭の隅に十株ばかり育てやうとする方の爲め今少し申上げやうなら、先づ種子を一撮そこらあたりに振り蒔いて時々

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

水を撒いてやる、生える成長る、三葉位になれば一方へ植替へる。二度目の植替も猫の額大で足りる。それから春になり雪の消え次第、壟も何もこしらへず、明た地面を鋤で打ち均らして一尺五寸四方に一本程宛植て、時々水肥と灰を混せて根本へ淺く埋めてやれば、時節さへ來ると、立派に球葉になりまして、僅か十株でも二三の友達新類へ贈ッてまだ食ふ丈けは充分殘ります。此の内植かへるのは面倒ですが、之れをやらねば葉球になり難いものであります。

○今度は此位にして次號には貯藏法、珍種、不時の間に合ふやう仕立つること、害蟲、などに就いて二葉園藝欄に、ちよい〳〵お話します。

注意

▲▲▲二葉園藝▲▲▲‖花好の人の爲、質問隨意の事。
▲▲▲家庭通信▲▲▲‖此欄は讀者諸君の集るべき倶樂部。
▲▲▲疾病衛生上の相談▲▲▲‖應答は専問家に依頼す。
▲▲▲讀者の顧問▲▲▲‖新家庭を作る人に取つての相談役。
▲▲▲西洋料理の栞▲▲▲‖これもお尋れに依り何にても答ふ。

洋食調理の衡量について

森亭主人

洋食を調理するには其原料品をはかる事が甚だ肝要です。日本の家庭ではどんな料理でも大凡の目分量で拵らへますが、西洋では之を(Guess Work)と云ふて非常に嫌ひます、料理に最も尙ぶ所は何時も出來不出來なく、同じ味の物を作る事ですか、それにはどうしても其原料を計らねばなりません。毎日の家庭料理にそんな面倒臭い事をと言はるゝ方もありましようが、習慣になれば何の手數とも思はず、始終出來損うたものをたべるよりも、いくら利益か知れません。

料理の話を爲し、又本を著はす人でも、實地的に衡量の標準を示さず、あと先きに區々の名稱を用ゐて、初心の人を困らせる樣な事もありますが、それ等は甚だ不親切な事と思ひます。私が平生はかりとして用ふる器は唯茶碗一箇と匙二本とでありますが、如何にしてこれだけで家庭料理の用を足しますかを記して置き

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ます。

▲茶碗とは洋食に用ふる珈琲茶碗にして其容量は半パイントなり△半パイントは液量の八ヲンスにして我一合よりは少しく多し△故に一合を標準としたる普通の湯呑よりは此茶碗の方稍大なり△俗にコップと唱ふる水呑硝子も亦半パイント容なり△凡そ洋酒の小壜は其容量一パイントにして此茶碗若くはコップ二杯に注ぐを得べく△麦酒の大壜は其倍量にして一クヲートと言ふ。則ち茶碗に四杯なり。

▲大匙(テーブルスプーン)又食匙とも云ふ△其容量は水の半ヲンスにして、此匙に十六杯則ち十六大匙の水は前の一茶碗と均しく、又半パイントに相當す。

▲小匙(チースプーン)又茶匙とも云ふ△其容量は大匙の四分の一則ちヲンスの八分の一にして大凡水の六十滴を容る△但し粉末の様なる盛り易きものは三小匙を以て裕に一大匙を充たすに足る。

(注意)茶碗と言ひ匙と云ふも液體の如く自ら溢れ出づる物の外、之を山盛りにするとすりきりに量るとにより、甚しき相違あるべし。故に強を以て山盛りを示し、弱を以てすり切りを示し、其中間には何のことはりをも爲さず。)

▲麦粉の篩ひたるものは四茶碗にて一ポンド則ち百貮十匁あり△其一茶碗弱は大凡四ヲンス△一大匙強は一ヲンス△一茶匙強は半ヲンスに當る。

▲砂糖 一茶碗強は八ヲンスにして△一ポンドは二茶碗強なり△其一大匙は一ヲンスに當る。

▲鷄卵。大さ中位のもの十個を以て一ポンドとす△其黄身と白身の量は殆んど同様なり。

▲バタ。一茶碗弱は七ヲンス△二茶碗強は一ポンドなり△其一大匙は大凡一ヲンスにして△鷄卵大とは二ヲンスに同じ。

右の外衡量と食品との關係につき記し得べき事は甚だ多くありますが。

私は字引を取次く様な役をせず、唯自分の記憶に堅く印して、日々實用して居る事だけに止めて置きます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰爭と直情吐露

〔一ノ谷嫩軍記の註釋〕

曲川生

先般四谷新宿の十二社で堺氏出獄歡迎園遊會の催ありし節、餘興として加藤時治郎氏の三吉子別れの義太夫があつた。氏は其美音を張り上げらるゝ初に當り、聽衆に對して予が今特に之を選んだ譯は、家庭組織の不完全より生ずる夫婦親子の悲慘を知らせる爲ですと述られた。

聽衆は恍惚として其美音にきゝとれ、三吉の境遇に同情の涙を灑ぎ、幾度かハンケチを以て眼を拭ふて居た人も澤山あつた。

曲了て「重の井」は何故にかくも氣強く其子を突き離さゞるべからざりしか。現今の婦人にて若し「重の井」の境遇に立たば、如何に其身を處すべき乎等、種々興味ある問題が聽衆の間に討究された。予の隣りに居られた阿部氏なども大に發言せられし一人である、堺

氏の令夫人も亦座にありて始終微笑を以て此愛嬌ある臨時の討論を聽いて居られた樣に記憶する、予も亦其席に在りて加藤氏の美音にきゝとれ、脆くも幾度か瞼を拭はされた内の一人であつたが、歸路不圖一の谷嫩軍記に、何でも熊谷直實の陣屋に其女房相模がやつてきて、愛子小二郎の消息を尋ねては、直實に叱かられると云ふ樣な事があつたやうに思ひ付き、是非一度本文をしらべてみたいと考へながら歸宅した。が併し、其書物が手許にあるのでなく、一方に非常にせわしない仕事にかゝつて居たので、つい今日迄其儘になつて居た。ところが今日隣家の人が偶然にも熊谷陣屋の段を持つて來て貸して呉れたので、予は少し許り其本文を讀んで見ようと思ふ。

「奥へ連て行く相模は障子押開き、日も早や西に傾きしに夫の歸りの遲さよと」

熊谷の女房相模は今國許から遙々山河越へて一の谷なる夫の陣屋に着いた計り、夫の家だから我家も同樣である如くであるが、そうはゆかぬ。直實から後に叱

かれる言葉にある如く、
『陣中へは便りも無用と堅く云付置きたるに、詞を背くと云ひ、剰へ女の身で陣中へ來る事……』
不屆至極と云はれはせぬか、どうしても思ひ止まるに止まられぬ母子の愛情で、小二郎の樣子が知りたさに來は來たものゝ、夫の申付に背きし段、かねて知るあの氣質であるから、定めし嚴しく叱られるであらうそれには何と言譯をしたものだらうかと、答辨の筋をも考へねばならぬ。旁々どうも我家に入る樣な心持がする處ではなく、初めて行く他家の座敷に通された時の感があつたに相違ない。否、それ處ではなく、何かの嫌疑で檢事局に引出された時の感さへあつたかも知れぬ、相模が胸中の不安の念は其夫の爲に叱られると云ふ事のみではない。一方には其叱かるべき本尊たる夫の直實に一時も早く面會して、愛子小二郎の消息をきゝたいと思つて居るのに、其歸りが遲き爲め若しや夫自身に萬一の事でもありはせぬかとの氣遣もないではない。それであるから、自身の答辯の事、愛子の樣子の事、夫に安否の事、此三つが交々胸中に來往してとつおいつであつたらうと思はれる。
『夫の歸りの遲さよと、待間程なく熊谷次郎直實、花の盛りの敦盛を討て無常を悟りしが、得了に猛き武士も物の哀を今ぞしる思ひを胸に立歸り……』
猛士直實亦胸中一點のヒユマニテイ(人道の念)あり敵を味方に分れても彼も人我も人『人類同胞一體』の自覺はさすがに彼にあつたりけり。而してこの胸裡一點のヒユマニテイは、花の盛りの敦盛を討たざるべからざるに至つて遂に直實に大覺醒を促した。人を殺すを商賣として何とも思はなかつた猛士も、こゝに到つて我と我身中に潛みしヒユマニテイの靈氣に打たれて勇猛の勢が挫けて了つた。此瞬間に彼が發心は成立したのである。此後の彼が武士としての荒々しき言語は、只在來の習慣が彼の口を通して、機械的に發し來るものと見るべきである。
『思を胸に立歸り、妻の相模を尻目にかけて座に直れば、軍次はやがて詞「先達て平次景高殿、何か詮議の

筋有迚、御影の石屋を引連御出有、奥の一間に御待と委細を述ればムウ詮議とは何事ならん、いや其方は一獻を催し、梶原殿を饗し申せ。サア早くいけいけハテ扨何を猶豫すると、叱りちらされ是非なくも、相模に顔を見合はして心を殘し入りにけり。』

夢の如き功名の爲に我心を奪はれ、我同胞を屠りて以て意とせざりしは、思へば我身ながら愚の至りなりけるよ。大悟し來れば功名畢竟空夢のみ、本心の自覺に復れば、奈何ぞ同胞を殺戮するの殘忍野蠻の業に就かるべき。我は既に敦盛の首の前に發心し大悟しヒユマニテイに復り、亦もとの武士にあらず。空夢の如き功名にあこがるゝ武士にあらず。平次景高詮議そも何事ぞ。武士を棄てたる我に何の怖るゝ所あらん。功名を棄てたる我に詮議立て寧ろ一笑すべきのみ。猶功名の俗境を脱する能はざる彼れ憐むべき高景には、一獻を催して予が憐憫の意を表せよや。」直實の精神上の立場は今や奸人梶原を見ること微塵を見が如しである。されど又多年の惰性、其妻に對してはつれない云ひ振り

『跡見送りて熊谷は、コリヤ女房、其方は爰へ何しに來た。國本出立の節陣屋へは使も無用と堅く云付置きたるに、詞を背くと云ひ、剩さへ女の身で陣中へ來る事、不屆至極の女めと、不興の體に相模はもぢ〳〵、其お叱りは存じながら、どうかかうかと案じるは小二郎が初陣、一里いたら樣子がしれうか、五里來たら便りがあろかと、七里歩み、十里歩み、百里餘の道をつい都迄ホ……オゝしんき、登つて聞は一の谷とやらで、今合戰の最中と取々の噂故、子に引されるは親の因果御量見下さりませ。』

見よ相模の答辨は言々句々實に人情の光彩を放つて居るではないか。子に引かされるは親の因果、此言葉に止めて置けば、直實も不興の體を猶も一層不興にして、嚙み付く事はなかつたであらう。けれど、相模としてはとても其丈けでは滿足されぬ。百里の途を遠しとせず、夫の怒を犯して來りしは何の爲め。小二郎の消息が聞きたい許りではないか。で、つい口すべらして直實に嚙み付かるゝに至つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「御了見下さりませ。マア子の小二郎は息災で居ますかと問へば、熊谷詞をあらゝげ、戰場へ赴くからは命はなきもの、堅固を尋ぬる未練な性根、若し討死したら何とする。忌いな小二郎が初陣によき大將と引組で、討死でも致したら嬉しい事でござんしよと、夫の心に從ひし健氣な詞に顏色直し（以下畧

相模は自分を見て豫期した程にも立服せぬ夫の態度に先ず心を安んじたが、御了見下さりませ迄云ひ來て多少心に油斷が出來た。かく云へばかく叱らるゝとよく〳〵夫の氣質を吞み込んでは居ながら、愼みの心を忘れて直情を暴露し、短兵急に小二郎の息災を尋ねた。直實の胸には敦盛の身代りに不愍ながら小二郎をとの考へが、畧は定まつて居る折からの事であるから、勿論此際妻の覺悟をも定めさして置かねばならぬ。そこで半分は武士としての惰性から。又半分は此小二郎の死に對する妻の覺悟を求むる必要から、熊谷は詞をあらゝげ、相模を叱かり付けた。而して、此刹那に於ける、相模の返詞は讀者に注意を乞ふべき主要の點である。子の打死を嬉しいと云ふ程相模に取つて僞りの言はないのである。

然し、强ゐられてかく僞言を吐く相模は今の世には果しておなであらうか。予が關遊會よりの歸途嫩軍記を思ひ出したと云ふも、實は此點を思ひ付いたのである。夫の前の妻、直實の問に對する相模の答、これは今の世に實に數多く繰返へされては居ないだらうか。義太夫の作者は之を夫の心に從ひし健氣の詞とほめて居るが、社會の心に從ひし健氣の詞とか、又は新聞記者の心に從ひし健氣の詞とかとほめねばならぬ其僞りの言葉が、實に今の世には數多く繰返されては居まいか。

予は是に至つて、今少し直實の前の相模を改めさせたい。僞言者でなく直言者であらせたい。そうするが爲には又直實をして今少し其妻の言葉に自由を與へさせたい。妻の情をも斟取らせたいと思ふのである。

（十三日）

腹惡しき隣同志の蚊遣かな　蕪村

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ランダル家

〔英國の家庭教育〕

渚山譯

四　克己と自重心

アルバアト、チャロッテの兩人が伯父の家の樣子を見て驚いた事は澤山あつたが、就中一家の人々が他人の爲に心を勞して世話する一事は、特に二人をして不思議の感を抱かしめた。畢竟、ランダル家に於ては、「重き物は共に荷へよ。」の語を以て單に聖書中の一金言としてある斗りでなく、更にこれをば日常生活上に應用して、着々其效果を收めて行くのであつた。

ランダル夫妻が非常な仁人である事は今更此所に吹聽するにも及ばぬ。けれども、彼等の志す仁なるものは、金子さへ出せば義務が濟むと云ふ、世間の所謂慈善とは全く違ふ。彼等は哀れなる人の間に金錢を譯もなく撒散らす事を避けて、代りに自主獨立の精神を注込まうと力めた。無論それは頗る困難なる目論見で、

單に一般の施行や寄附金を以て滿足して居たならば、左程の苦心勞力がなくて濟んだのかも知れぬ。

ランダル氏が一家を携へて、此ハズレハムへ移住んだ時は、今から二十有五年の前で、それこそ見る影もなき村の體裁であつた。無智、悖德、加ふるに亂醉と云ふのが住民達の平常で、彼等の生活は年中悲慘、窮乏、この二者の外に出でないのであつたが、今日になつて見ると、恐ろしい變化とも云つて好からうか、全然同一の場所であらうとは容易に信ぜられない位である。思ふに熱心なるキリスト信徒なりし氏は、肉の外に靈を持たぬ、――云ひ換ゆれば神は持たぬ、天國と陰府とを知らぬ土地の人々に始めて接し、當時深くも同情の念に動かされる所があつたのに違ひない。今余は其後の彼の大事業に就て管々しく此所に述立つべき餘白がない。唯一筆書付して置きたい事は、氏が全身の精力を此事業に傾注してより二三の年數を閲するに從ひ、漸次村民が上帝を知り始め、意義ある生活を自覺し、新しい學校と新しい教會とが、村人の手に依つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て頻々建築せらるゝに至つたと云ふ一事である。

さて、氏が清高にして情致ある家庭を飾るべき數個の愛兒は、父に相似て強い活動的精神に滿ち〳〵て居た。けれども流石に平民主義の家庭教育法は、愛兒をして他の富家の子弟の如く、多くの貧兒の間に立つて金錢と尊敬を交換を強ひるやうな、其樣な鄙劣な行を斷じてさせなかつた。氏は常に云ふ。『否、貧民の子も矢張一人前の男です女です。彼等も矢張あなた方が持つて居るのと同じ獨立の精神を持つて居ます。それで、若し彼等に其精神がないなれば、ある人から進んでそれを持たせてやらねばならぬ。私は世の中の金持と云ふ人が、金錢を餌食にして貧民に恩を着せやうとするのを、大變に賤しい事だと思ふのです。』と。富家の子に對しては、此教訓は全く其活動の一面に大きな堤を築いたものに外ならぬ、さり乍ら、苟も意思ある處に道のない筈はない。即ち、ランダル家の小供は父親に堰止められた堤を越ゆる愚をなさず、極めて見易い處に活動の方面を發見し、以來着々として善美の行爲を繰返して居た。

ハズレハム小學校は七月の下旬にあつて、學期試驗を了り、其學業の優等者並びに期間無缺席の勉强家に對して、それ〳〵賞品を授與する運びに立到つたのである。全校の生徒は夜の目も寢ずに此日の來るのを待設けて居たが、トム、エドガア、ジュリアの三人とても、矢張同樣の樂みに耽り乍ら待あぐんで居た仲間であつた。兄弟は先づ其日が來ると、父親の同意を得て更に大工に助勢を頼んで校門の前にアーチを建てる事にした。仕事の進行中、アルバアトは靜に腰掛して眺めて居たが、固より自分から手傳ひをして見やうとも思はねば、勢働を共にすべく勸め甲斐がありさうにも見えなかつた。其間に兩人は傍目も振らずに働き、アーチの外に校室内の裝飾迄も自分達でやつて了つたが準備の全く完成したのは、丁度式のある前日の夕暮であつた。其時二人は流石に劇しい疲勞を覺えた事を自白した。

アルバアトは此樣を見て、『何だつて其樣な無駄骨を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

折るのだらう。僕だつたら金を與つて他人にさせるねえ。併し僕が思ふに、彼様な貧亡な學校の生徒なんどの爲に、立派なアーチを立てゝやる必要があるだらうか。これが知事さんとか、又はそれ程の地位のある偉い人の爲ならば、實際必要でもあらうけれど。」と云ひ乍ら、應揚に身體を家の方へ運ばせて行く。『馬鹿な……』ぴりゝと胸にこたえたエドガアは、冷かに嘲笑つた。『君は物事を自分で考へて自分でそれに手を下す時の愉快を知らぬのだ。若しこれに金を費して他人の手に任すとし給へ、僕等は傍で懐手をして見て居らねばならぬではないか。物事に面白味が附くのは、自分が主になつて手を下すから起るのだ、――それから、君は知事さんだとか偉い人だとか云つたが、生徒等が喜ぶ半分程も其様な人達が此アーチを見て喜ぶやうな事があつたなら、僕は二度とは君にお目にかゝらぬよ。」

トムはエドガアよりも言葉優しく、『若し父上様が君のやうな考で居られたなら、此ハズレハムは決して此様な善い村になつて居なかつたらう。』

『そ、それは知つて居るさ。伯父さんが此村を立派にしたと云ふ事は、僕だつて同意するよ。けれども伯父さんのした事は僕等のやうな小供のするつまらない事とは全く違うのだもの。此様な花のアーチを作へるなんて……』

『併し君』とトムは遮つた。『父上様が仰有つたよ。何でも他人を樂ませる事なら、つまらない事は決してないて。だから僕が大人になつたらば、それ相應に大きな事業をする考だ。僕は先づロンドン中の盜賊や惡漢を悉皆集めて、一々正直な幸福な人にして見たいと思つて居る。さもなくば、中央アフリカへでも渡つて、野蠻人を教育するのだ。世界中の國々を一體に文明國にして了うのは、立派な事業でないだらうか。』

此時慓輕な例のエドガアは横合から『其時若し黒奴が僕を食はないやうな兄さんがして呉れたら、僕は乾度阿弗利加へ遊びに行くよ。』

『また彼様な戲談を云つて居るよ。』

兄丈にトムはエドガアを戒めた。次の朝は幸にし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て清朗な天氣であつた。朝飯が濟むと、父親はトムを呼んで、二里餘り隔つた處に住む、ハアレイと云ふ紳士の許へ届けるべき一本の手紙を彼に托したのである彼は最後に附言して、

『小馬に乘つて行きなさい。さうでないと、十一時の式迄に歸れぬかも知れないから。』

『若し留守でしたら待つて居りませうか。』

『可成的返事が欲しい。だが多分外出はして居ないと自分は思ふよ。』

頓てトムはハアレイ氏の住宅に着いたが、女中の口上に依ると、近頃出來た植物園を見に行つたとの事である。そして、トムが待ちあぐんだ目で、氏の姿を見た時分には、餘程の時間が經つて居たらしい。トムには手紙の返事を待つ間が非常に長く思はれた。それと云ふのは、彼が時間を急くからである。やつと氏の家を辭して出ると、彼は小馬に能ふ限り馳らせた。時計の針はもう十一時に十五分よりない。

『到底時に合はないだらう。』

から獨言をして、道程の殆んど半迄近付いて來た時トムは突然一人の友達に遭遇した。友達は小學校の生徒で、住居は此邊の里であると聞いて居る。

『お丶！リチヤアドぢやないかね。どうして今日は學校の式に行かないの？』

呼ばれた少年は恨めし氣な顔色で、『僕はね、昨日樹から落ちて脚を害したの。一旦は我慢して行かうと思つたのだが、歩き出すと痛み出すので、到底辛抱が仕切れない。今家へ引返へさうと思つて居る處なんだ——實は今日學校へ行けば賞品が貰へるのだけれど……』

聞くよりトムは小馬から飛んで下りた。『君！此馬に乘つて行き玉へ。僕は歩けるから。今から全速力で急いだら、丁度位に間に逢うよ。さあ早く、君。』

朋友の親切に對しては、何と云つて感謝して善いやら、少年には言葉さへも出なんだ。彼は急かれた儘にそれに乘移り、慣れた手で一鞭輕くあてると、小馬は宙を飛ぶやうな勢で馳出し、忽ちの内に姿は森影に隠れて了つた。

此日トムの歸着は勿論遲かつた。けれども、朋立のリチヤードが優等の賞品を受けて居る處を見た彼は、汗水垂らして歩いて來た疲勞をさへ忘れ、自分の志が通じた事を何より先に喜んだのである。

今余はトムの性質に就て、少しく此所に附記するの必要を見る。讀者はトムがなしたる此行爲に照し、彼は常に斯くの如く爲し、斯くの如く行ふ少年であると誤解してはならぬ。即ち、或點に於ては往々利己的自重的の處があつた。世の少年輩は此邊の消息に動もすれば早合點をなし、一旦事變あれば、如何なる犧牲になるとも敢て辭する處でない、と云ふ大覺悟を平生持つて居ながら、寒い日に炬燵の傍を離れる勇氣がなかつたり、有害なる快樂に溺れた一身を自分の力で引出す事が出來なかつたり、總て此樣な風の些細な點に克巳心の働きを鈍らして居る事が割合に少なくはないのである。

五　貧者と富者

暑中休暇が濟んで了ふと、トム、エドガア兩人はアルバアトと共にまた〳〵毎日通學をする身となつた。アルバアトは何時か教師の目に才能ある少年として認められ、日の經つに從つて怠惰的習慣が段々と薄らいで行つたが、獨り姉のチヤロツテのみは、何時迄經つても元のチヤロツテであつた。專ら家庭教師として其任に當つて居るウヰルモト孃は、曾てジユリアに施したものと同一の方法を以て、日々の課業にある興味を覺えしめやうと焦心つたが、效果は少しも見えて來ぬ。學問研究を深くも愛して居たジユリアに引代へ、彼女は讀書を以て眞に物憂き仕事と考へるのである。尤も、遊戯、體操等の點丈は、從姉妹達の驥尾に附して、多少其味ひも解つて來たらしい。

斯くて其夏も過ぎ、秋も逝いて、廣い英國にあつても、稀な程幸福なランダル家の周圍を、冬は次第〳〵に取捲いて來るのであつた。併し其冬、其冬こそ永遠に忘れ兼ぬる程悲慘な冬である。其年、恰も南北戰爭が亞米利加の地に破裂して、許多の棉會社は爲に著しい打撃を蒙つた。幸ひにして、ハズレハムには製棉工

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

場と云ふのがなかつたが、一里乃至三四里程も隔つた海道筋の村々には、平常から手廣い組織を立てゝ營業して居る大會社があつて、其會社等が原料輸入の途の斷絕した爲め、工場閉鎖の止むなき至つたのであるから堪らない。そこに一身一家を信托して、日々のパンを儲けて居た男女幾千の職工、俄然失業者の悲運に衝落され、日夜瀕死の境に喚き立てゝ居る其光景は、眞に一幅地獄の畫圖に異ならぬ。此悲慘の出來事が、段々と各地方へ播傳して行くにつれ、世の篤志者は早くも義捐金を募つて、應急の手段を講ずる輩もあつたが何分にも失業者の頭數が夥しいので、隈なく其溫き恩惠に浴する事は出來難い。加ふるに、大抵の工場持主は此意外なる災害の爲に、被雇者と同樣の運命に陷るもあり、かた〴〵ランカシャイアの地は日を追ふて慘狀の度を高めるのであつた。

こゝにジユリアの誕生日は十二月の、而もクリスマス休暇の日に相當するのである。此日は例年彼女自身で清き會合を催し、日頃親しい友垣と共に樂しい一日を暮す事に定つて居るのだが、流石に今年は世間が憚かられて、ジユリアはこれを實行する氣になれなんだ。で先づ其所思をトムとエドガアに告げると、兩人は暫時默して答へず。稍あつて、「僕の考では姉樣の誕生祝ひを癈したつて、左程の事はあるまいと思ふねえ。澤山な職工達にパンの片一つ宛も其費用では買へないだらう。」とトムが云ふと、エドガアは

『さう云つて了ふから困る。トムは何時も素扱らしい事でないと輕蔑する傾きがあるが、誰一人助けぬよりも、五人でも十人でも救へる丈救つた方が、此場合には上策だらう。』

『さうさ。只僕は一人も殘らず彼等を苦境から救出す事が出來たらばと思ふのだ。』

『それは誰だつても同じさ。されど姉樣の考へは僕は兎に角善いと思ふ。どうだらう、今度のクリスマスには伯父樣から橇を買つて貰ふ約束だが、一層の事今年はお金が貰つて、それも一所に義捐しやうか。』

此時迄ソーフワに身體を橫へて居たアルバアトは、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

急に跳起きて三人を見つゝ、『大變の相談になつたねえ。此分では伯母さんにあの支那コップ迄も叩き賣つてくださいと頼むのだらう。』

『大丈夫だよ。君の分は一つ殘して置くよ。其代りに小物を賣拂ふ時には、君の好なソーフワを取上げるのだ。』

『あヱドガア！』とトムは遮り、『橇を金に換える事は餘り氣が進まぬねえ。隨分久しい間待焦れて居たのだし、橇があれば此冬は健康な遊びが出來るからねえ。』

『裏の禿山へ持つて行つて乘つたら、嘸面白からう。』

『だつて二人乘れるの？』とジユリア。

『どうだか、橇の大きさ次第だ。』

『まあ其樣に急ぐ事はない。靜かに考へやうよ。』

かくして靜かに考へた末、相談は漸く纏つた。それは一日千秋の思ひで待暮して居た、伯父からの橇をば、愈々金に換える事に一決したのである。

ジユリアとアルバアトには克己と云ふ高き快樂にまだ習慣付けられて居なかつたが、それでも幾分寛仁の

精神は胸の底にあつたらしい。彼等は三人の企てに對して多少の同意を表し、各自のポケツトから何程かを出して醵金した。――實に與へるものは受くるものよりも幸福である。聖書に曰く、『貧者の出づる源に遡りて考うるものには天の惠あり。』と。

六　アングロサキソン民族

數多の學校友達の中でトムとヱドガアが最も愛して居るのはジオフレイと云ふ醫者の子息であらう。この三人の友誼はジオフレイが抑も入學の當時から結ばれ、何彼に付けて二人は此子の有力な保護者であつた。と云ふのは、ジオフレイは非常に矮少な先づ不具者に近い少年であつたから。

凡て强健な色艶の好い少年輩が、此樣な風の哀れな小供を見て、嘲笑したり冷刻に取扱つたりする事は、何れの學校にも珍しからぬ出來事である。今、ジオフレイに對しても、アレキサンタアと呼べる一人の意地惡き敵が居た。ヱドガアの毎時の如く、辛抱の出來得る丈は辛抱して、其惡罵の聲を聞いて居たが、終に堪

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

へ得ずなつて、思はず強き怒がアレキサンダアの面前に於て爆發した。輕薄な少年はそれでも濟ましたもので、只笑ひ乍らヂエフレイを靴で蹴り、時には愉快げに『駝脊よ〳〵』と罵り喚くのである。

『おい、何をするのだ。其所を去き玉へ。』

エドガアはもう正義の憤怒に何事も打忘れて居る。

『何だ。小さな奴が傍から口を出して。これを見ろ、此樣なものだ』云ひつゝ、態とエドカアの方を向いて又候足を上げた。と同時に彼の勘忍袋の緒は終に切れ突如湧上る血潮を込めた腕で、アレキサンダアを叩仆した。仆る丶間際にひよろ〳〵とした足元が、折惡く自分の衝立つて居た堤の角を外れたので、彼はあれと云ふ間もなく、泥田のやうな堀の中へと深くも身躰を投込んだ。何たる醜態であらう。彼は堀から這上ると流石に傍目も振らず、總身泥の儘で我家へと遁歸つたが、此時最初からの活劇見物人はどつとばかり聲を上げて、エドガアの勝利を讃美したのである。元來此子は平常から喧嘩好の少年ではなかつた。感情的で性急なのは彼の性質であつたけれど、自分自身の勝手を防衛する爲に人と爭つた事は、今迄に一度もなかつた位見物して居た同輩が俄に彼を全校中のヒーローを以て擬するに至つたのも、恐く此一事が彼等の意表に出たからであつたゞらう。ジオフレイはトムから『兎も角宅へ來たまへ。』と勸められて、只厚き感謝あるのみ、唯々諾々として其恩人に結付いた。其日ジオフレイは我身の累がエドカアに迄及びはすまいかと、打案じて居たが、それはトムの意見の如く、アレキサンダアは終に校長に報告する事をさへ思ひ止まつた。無論思ひ止る筈でもあらう。エドカアの非を彼が鳴らす事は、とりもなほさず自己の罪跡を告白するのと同じであるから。

以來、アレキサンダアは兎に角胸に或物を感得した結果であらう。駝脊の少年の不格好を晒ふが如き冷酷な眞似は、其後一度もしなかつた。

ジオフレイには一人も血を分けた同胞がなかつた上に、他の少年との交際を平常から遁けて居たので、彼

が學校へ入る迄の只一の朋友は慈愛深き兩親であつた父親は自身で彼の敎鞭を採り、兼ねて社會的智識を多少なりとも吹込まうと力めたが、幸な事には小供が先天的に學問好きで、記臆の力も恐ろしい程強かつた。併し父親が十三になる子供を初めて學校へ入れた時には、流石憐愍の情に打勝ち難く思つた。實際家に閉込めて置く事の有害なるを悟らぬではないが、如何にして子供が自分の恥しさを忍ぶであらうと、思へば、一旦決した理性も鈍らずには居られなかつたであらう。此間にあつて、ランダル家の二少年は實に彼の爲めの大恩人で、ジオフレイが今日迄學校生活で永續したのも、全くはトムとエドガアが居たからであると云つても好い。

『僕が學校へ入る迄は本を讀む事と庭をいぢる事より外に何も知らなかつた。』と、ジオフレイが何時も回想しては述懐する通り、近來では不具者に近い身であり作ら、人生にある程の快樂は、一として味はれぬと云ふ事はない。土曜日になると、彼は必ずランダル家の子供と往來し、或時は公園を散歩して馬乘り、魚釣りの快味を覺え、或時は父親の研究室に伴つて、其美しき小博物室から未知の智識を得るなど、不知不識の内に陰欝な悲觀的の性情を打破つて居るのであつた。尤も近頃ではアルバアトも此仲間の一人となつたが、まだ互に相親む時間が短い所爲か、トムやエドガアのやうな交情は二人の間に成立つて居なかつた。

ジオフレイの父ハルストン氏は村の小供達に甚く氣に入られて居たが、それと云ふのは、彼自身が既に子供の心であるからであつたらう。實に彼の少年時代はあらゆる冒險の歴史と物語とを以て滿たされて居た。

ある日の事である。彼は此等の小供達の仲間入をして、冒險旅行家が屢々猛獸や害蟲に惱まされる事、それから其等の人々が上帝に對する強き信仰に依て、屢々萬死の間に安全を得た事があると云ふ物語をした。彼は語を續けて、

『亞弗利加内地へのある旅行者が、ある夜其同伴者が牛車の上で夢を結んで居るのに、自分一人神にお祈り

をしたと云ふ事があります。すると、忽ち一個の恐ろしい大蛇が顯はれた。月の光は四邊を明かに照して、其人の目には現在我に近付いて居る大蛇の姿が見える程である。けれども、信仰のあるお陰には、丸で其樣な事には無頓着で、到頭危い所を免がれた事でありました。』

『成程不思議な避害法ですねえ』とトムが此時感心したやうに云ふと、アルバアトは『一體其樣な風の事は全く必要な事でせうか。僕は冒険旅行などは實につまらぬ仕事だと思ひます。』

『エドガアさんはどう考へます。』と醫師。

『いや慥に必要です。若し人類が危險を恐れて居たならば、新しい發見など決して出來るものでないです。』

『かまわぬさ。家に居る斗りです。』と云ふアルバアトの言葉を引取つて、

『成程家に居る事は善い事でありませう。總ての人が家に居て、旅行もせず、傳道もせず、海へも出ず、船をも作らず、―― けれどもアルバアト、其樣な事をして年月を暮したならば、文明の國が再び野蠻に返る事を御存じないか。』とトムが攻擊する。

『いや、僕の云つたのはさう云ふ意味ではない。只冒険の爲に冒険を企てるのは不必要だと云つたのさ。』

此に於て醫師は言葉を插んだ。

『双方正しい。目的のない冒険は實に愚だ。いや寧ろ惡事であります。引代へて意味ある冒険ならば、それは實に必要な事であるです。』

『無論です。若し僕等の先祖が是迄に危險と困難とを愛さなかつたならば、決して今日の英國は産れて居なかつたでせう。』と、これはエドガアの氣焔である。トムとジオフレイは、只手を打つて快哉を叫んで居たが稍あつてトムは、『英國民は地球上でも一番精力の強い人種で、此精力が國民を此樣に大きくして了つたのです。英國民は到る處に突進して、ある事業に向へば必ず成効すると決して手を下します。僕は今日フワルトンさんから斯う云ふ教訓を受けました。』と、これが此集會の段落となつて、目出度解散をした。

食卓と料理（緑亭応答）

▲私はビイフステキ料理を種々の書物から學んで、今日迄に幾度か試驗して見るのですが、まだ工夫の足りぬ所爲か、何分得心の行くやうに出來上りません。御參考の爲に現在私が用ひて居ります料理方を申し上げると、普通の肉を五六分の厚さに切り、それに食鹽を附し、牛肉の脂肪を融かせた金鍋の上で燒くので御座います。何卒委しい御敎示を願ひたきものです。

それから、一所に出す添物は、一體何が宜しいのでせうか。（東京かぶら）

ビーフステキを旨く燒くには肉の汁を外へ出さぬ樣にするのが何より肝要です。それには肉へ少しく麥粉をつけ、熱したる油の鍋へ入れ、非常に強い火で燒かねばなりません。初から鹽をつけると、水分を呼び出して可けませんので、鹽と胡椒はあとからふりかけます。私は平常フライ鍋を用ゐず、肉へ金串をうち麥粉をつけた上へバタをぬり、烈しい炭火の上で燒きます。ビーフステキの附合せに、毎日用ひてあきの來ませんのは、ジヤガ藷の煮たのか揚げたのでしやう。

▲オムレツの製法に心得ればならぬ條々を聞かせて下さい。小生の妻が食べさせて吳れるオムレツは、から〱として丸で菓子のやうです。即ち滋味がないのです。又、薄く燒いて肉などを小さく切つて包み込むのもあるやうですが、あれは日本で發明したものか、それとも西洋にもあるものですか。（垂井生）

オムレツは卵三箇へ水（牛乳若くは肉汁ならば更によし）大匙二杯を加へ、鹽と胡椒で味をつけ、フライ鍋の至極奇麗なのへ油をしき、少しく熱した時其中へ入れ、とろき火にかけて、底の方が固まるに從ひ、焦げつかぬ樣二三度箸で交せ返し、將に全體が固まらんとする時、半月狀に折り返します。卵の蛋白質は最も低い熱（攝氏七十三度）でかたまります故、此火は餘程弱くしませんと、オムレツが堅く不消化なものになります。

オムレツへ肉や野菜を入れるのは西洋でも致しますが、趣味も調和もなく、無暗に拾ひ込むのは、全く日本流だと思ひます。

▲料理法以外の問ひかも知れませんが、夏季中訪問客に出す麥湯の冷したのや、茶などの代りに、何か輕便な飲料が御座いますまいか。あれば其飲料の作り方と藥品とを御知らせ下さいまし。（兵庫、銀子）

夏期の飲料は砂糖水へ生菓の汁を搾り込んだのが最も適當ですが、其菓物は土地と境遇とにより思ふ樣に手に入りませんので、一々説明しても左程の利益がな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いでしよう。私の地方では蜜柑類が澤山ありますので、砂糖水へ青みかんの汁を搾つて出します。又『水は總ての飲料中最も良きものなり』とは唯理屈のみでなく、西洋人は日々實行して居る事です。私は我國でも食卓の上で平生水を呑む事を流行させたいものと思ひます。

▲キヤベヂイ捲の製法を一通り御教示願ふ。又キヤベヂイは生の儘でも食べられるでせうか。（可井生）

キヤベーヂ捲は私が幼少の頃日本でたべたぎり、外國で前後九年間も暮した内一度も出くはした事なく、其製法も心得ません。キヤベヂイの生食法は澤山ありますが、其内簡易なのは、中の方の葉を細かくきざみ、鹽、酢、砂糖、胡椒、芥子及水を少しづゝ交せた汁をかけ、冷肉やゆで卵にそへて用ゐます。

（附言）　右の内ビーフステキとオムレツの製法に就ては、他日を期し私の實驗法を委しくお話しする積りです。又質問について知らぬ事は全くお答を致しませぬ故、御承知を願ひます。

假染に早百合
生けたり谷の坊

二葉園藝

エデンの花守

○家庭と花（花の報告）（渚山兄より）

此間から花の便りをしやう〳〵と思ひながら雑誌の方がいそがしく、つい今日になつた譯で御座います。

今朝あたり最もフル、プロツサムの見頃なのは金雞菊です。特に此子供は運のよいことには日光のよい場所へ蒔付けられた爲め、成長も速で咲いた花も大層大きい。私の目下の處では先づこれが十七八の娘を持つたやうなものなので、何となく家の誇りにして居る譯です。

ヘリアントースは十日計り前に大分咲きましたが、今日ではすがれ氣味です。これは運惡く半ば梅の木の蔭へ蒔れたので生育が面白く行かなんだ。可愛さうなことです。序ながらこれは俗に云ふ茼蒿とは違ひますか。（二葉曰、ヘリアントースは茼蒿と同じく菊科の植物ですが、莖に斑があつて、葉はあんなに細かく切れず、其の形と云ひ花の形と云ひ誠に日向葵に能く似たものです。唯だ日向葵の花より少し小さくて多く咲き莖が少し短い位が異る點です。此の間も二三の花の友から此のやうな質問があつた所を見ますと、どうも私が茼蒿と取違へて上げたやうに思はれます。もし左樣なら皆さんに輕卒の罪を許して戴かねばならぬ）

ウエンターサンマーは其の隣りに位置して居りますが可也出來がよい方です。小さい子供が少々實つて居ます。私は此子の花が餘り質素な上見榮がないので不思議に思つて居たのですが、よくしたもので、ちやんと實がなるのです。造化は決して偏頗なことは致しませぬ。

牡丹芥、ゐぞ菊、フロツクスと三つ并んだ中で、フロツクスは今朝始

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

めて咲きました。しかも白と紫で可愛い花です。小町草、貝殻草、びろどさう、すゐせんのうの四種は前の方へ蒔きましたが、まだこれは花が咲かず。段々の樂しみにして待つて居ます。此の中貝殻草は一番出來がよい方です。

種子を蒔いた中で松葉牡丹とヂギタリスとは、どうしたものだつたか、遂に顔をも見せずにしまひました。此のヂギタリスは狐手套草と書くのでしやうが、どんな花ですか。

以上は花の通信です。茲で改めて君に謝し併せて大なる自然の榮光に伏せねばならぬことが、私の家庭に一つあります。それは妻が常よりは一層早起になつたことです。尤も妻が早起になつたのは昨年の朝顔の時分で、毎朝々々露を含んだ麗しい花を樂しみにして起きますから、だんだん目ざめが早くなり、終に舊來の惡習慣を破つた譯で御座います。此の頃では其昨年來の良習慣がいよいよ完全になり、四時頃になればもう目があくそうです。併し私は夜分原稿などを書きますから六時より前には起きられぬ。勿論夜は妻が先きに寢るのです。これ實に花の賜物の實例を見た譯けであります。

それにも一つ嬉しい事は、眞に小さな畠をこしらへて、蔬菜をいろいろ植えてから、妻に植物學上の知識がつき、農藝的の高尚な趣味が分つて來たことです。始めは毛蟲などを見て「あら厭だー」と云つて眉毛をひそめて居たのが、此の頃では平氣になり、其毛蟲のついて居る葉を自分で取り除くと云ふ勇がつきました。實にこれも自然に接觸した大なる賜であらうと思ひます。(七月七日)

○二片の下葉

◎私に暇と場所と機會があれば、先づ東京の眞唯中で朝顔を凡そ百萬鉢程作つてみたい。そうして最早花を咲うと云ふ時分に四方八方の沒趣味漢の枕邊へ、四五鉢づゝ配つてみたい。其の時、僅か四五鉢の此の花が如何に高潔な趣味の傳導をなすかは、盗し計られぬ位であらうと思ふ。

◎交通不便な山村に住んで居るものは正直で健康、而も長壽者が多い。それから感化院の成蹟でみると農業部のものは感化早く性質も温順であるが、小細工や手仕事に從事する營業部のものは中々性質が改らないさうだ。又、植木屋に刑事上の罪人を出すことは最も少いと聞いて居ます。さて私はいつもこう思ふのであります。早く我等の理想の社會へ行つて、植木屋のやうに花を愛し、農業者のやうに自分の腕で生活し、山村の人のやうに無邪氣になり、そうして今一歩進んで、智情意の圓滿に發達し、蔬菜以外の趣味に飽くの人になりたいと。私は此の問迄植木屋や所謂好事家なるものを馬鹿にして居ましたが。此東京地方に栽培せられる竹材や筍を採る江南竹は、もと島津公の愛翫的移植に始まつたとか。嘗つて平民の花として推賞した玉蟬花も元はやつぱり好事家の松平左金吾の手に作られたとか、有名な甲州葡萄や紀州蜜柑なども好事家の手で改良せられたなどゝ聞いたので、今更我々が、これ等の諸君の人類界への貢獻に感服したのであります。

◎方々の高山の頂で涼氣を喰つて、旭日の偉觀に打たれて、さて徐ろに百花咲き競ふ山上の春風に吹かれたい。

○八月の園藝

我々が暑さに苦んで何もしない間に、自然は「花と實」の世界を開展して呉れました。そこで早速。本月お蒔になつてよい者を申上げます。

△直ぐ成長る九日萊菔。これを此の上旬に播いて置くと來月の初めには早や食膳に上るやうになります。つまり早く食はれるのが特色であり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ますから此の外やがて、
△見事に大きい秋大根。を収める爲め、種類をお撰びになつて下旬迄に播いて下さい。(種類は多くありますが、方領大根、練馬大根、櫻島大根、聖護院大根等は最も宜敷う御座います)それから、
△目の覺めるやうな甘藍、体菜、包心菜、白菜、なども播いて下さい。しかしこれは來月の初旬へ行つても差支いありません。これ等の外、小松菜、慈顆、菠薐草、夏午蒡、蕪菁、夏葱、萵苣、芹菜、蠶豆なども追々餘裕のある方はお播き下さい。周圍の自然は、これ等の播き方の大根を諸君に暗示して居るから、私は特別の手入方などは追々申上げることを約して、こんどは別に御話し申さぬ。
△これから蒔くべき花の種類。レセダ、プリムラ。シクラメン、ザキタリス、カーチーション、カンパヌラ、ヒャスカス、シチフリナ、スウートアライサ、ムスカピオサ、ポレモニウム、石竹、あんじやべる、亞米利加撫子、桔梗などでありまして、並に特に申上げたいのは、蚤や蚊や害蟲を花で殺す、
△除蟲菊を。此月から來月へ亘つて播いて戴きたいのであります。一言や二言で紹介や出來ぬから、此の美しい効のある花を來月の御樂しみに預つて置きます。
○芽接。薔薇、桃、梨、杏、櫻桃、牡丹　(根接)
○移植。芍藥、草苺。
○壓條。カーチーション、石竹、
○挿木。ズリオフィラム、カーチーション、コリウス、アキラントース、ヘリオトロープ、ゼラニユーム、茉莉花、薔薇、杉、石楠花、天竺牡丹、時計草等
○摘挿。ベコニヤ、グロキシニヤ、ブリオフイラム、景天草、シクラメン等。

○蝸牛の驅除法　(小林夫人質問)

仰せの通り蝸牛即ち、でんくでゝむしと云ふ奴郎は、胡瓜の苗も喰ひば總ての菜類も害します。殊に甘藍を好みます。しかし繁殖が早く無いものだから隨分我慢が出來るので御座います。さて驅除法と來ると難かしいので、此奴を退治する程の藥品は植物を傷害ろし、ちよつとした物位ではビクともしませず、誠に手の付けやうのない悪者ですが、今云つた繁殖力の弱いのと、大きくて目に止り易いのとを利用して箝或は箸で挾み出し、集めて邪魔にならぬ所へ持ち行くか、慘酷でないやう一度に殺して終うとです。殺したのは澤山なら肥料にもなりますし、鷄などの食物にもなります。けれども此の法は屢々作物や花を見舞つて、葉に孔が明き蚕の糞のやうなものが其の邊にあるのを認めたら必ず葉と葉との間に日中潜んで、朝夕其の害を逞ふする彼奴が居るのだから直ぐ除かればならぬのです。一體彼れは幼植物を殊に珍重して食ひますから幼さい時丈け注意すると後は割合安心です。(とは申せど甘藍のやうに内の方に柔い葉のあるものは、それと剛い葉との間に隱くれて柔い方のを喰ひますから御用心なさいまし)

▼埼玉の澤井君へ、お問の草は玄參科のザキタリスと云ふ心臓病の藥草であります▼靜岡の宮本君に申上げます、朝貌の栽培法で、最も委しいのは(而も餘りに古臭からざるもの)六月末から日本新聞に連載されて居る「朝貌培養訣」だらうと思ひます。又、園藝の書物でよいものは追つて紹介しませう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「避暑」羨むべき乎

○盛夏の頃日は吾人の克己心、耐忍力、而して健康とが如何なる程度迄保たれ得べきかを檢せん爲に、終日吾人を屋上から威嚇しつゝあるが如し。けれども自然は流石に寛仁大量、若し夫れ夕榮の雲漸く消えて、軒端の風鈴に涼風の便音する頃にもなれば、世の中は此に一變する極樂の境地、糊付の浴衣に澁團扇輕く、椽側に一家團欒の莚を敷いて月の昇るを待つなぞは、實に此上もない樂みで、暑さに負けず我が事業の爲めに苦闘した晝間の貴さが、此刹那に至つて始めて自覺されるのである。

○吾等は昨今の新聞紙上で、温泉、海水浴、其他山水秀麗の地の避暑案内を澤山見るだらう。而して新聞にこそ出て居らねど、新橋の停車場あたりへ行つて見ると、時局の爲に遠慮々々と云ふ幌の中に隠れ乍ら、數多の貴顕紳商など云ふ階級の人々が、若々しい花の如き美人（此美人は或は令夫人でないかも知れぬが、さればとて皆が皆まで賣色者ばかりであらうとも申されぬ。何となれば、近頃の婦人は愛に依つて結婚せぬ故夫婦の年が二十違はうが三十違はうが、其様な事には一切關係して居らぬ。）を連れて各自志す樂園へと出發する處を見掛けるであらう。

○併し吾等は此方々の避暑の樂みと云ふものに對して左程に羨みの情を抱く者ではない。理由は必ずしも金錢に不自由など云ふからのやけ腹でもなければ、避暑をする程身體が弱くないと云ふ丈の譯でもない。吾等は實に人の此世に處する道なるものを以て、只眞面目なる働きと信じて居るからである。即ち人生は働きが單位である。

○吾等は才に鈍く智に淺きが故に、暑くなれば直ぐに避暑、冬が來れば避寒と云ふやうな便利な活動が到底出來ぬ。譬へば農夫の如く、吾等は終日水田の中へ汗水を垂らし、日暮になつて始めて晝間の勞を休ませるのが關の山で、これ以上に用のない時間は吾等にない

○熟々思ふに、今の上流社會の避暑なるものは、文

字のあらはすが如く只是れ避暑で、其間に一も休養摂生の意味があるのでない。彼等が人生にあるの理由は我慾を満足せしめること、安閑と遊んで暮すこと、此二つを措いて外にはない。平生我儘をして遊んで居る者に何の避暑の必要があらう。彼等は狂言に飽き遊びに飽きて、止むを得ず避暑と云ふ新しい玩弄品に就いた迄の事である。

○見よ大官を、頭取を。眞個に汗を出して働いて居るのは属吏と番頭と小僧である。彼等の如き社會の上段の室に立つ權力者、支配者、金權者は、偶然に得た所の地位に安んじ、見物人を玩弄にして好い加減に誤魔化しをして居る、實は劇場の藝人である。其處に何の心配があらう。其處に何の誠があらう。

○氣の毒なるは此等の藝人と一生を共にせんとする奥方令夫人である。支那的の豪傑と一所になつた見榮坊の婦人である。其身こそ高官の妻、富者の室なれ、心の愛は消失せて、自由の意思終に跡を絶つ。甚しきは貴き良心の光を殺して、夫の愛物と同様し、自尊の念と權利とを知らぬ果ては其愛物を妹の如く遇して、夫より世間より貞女、焼餅せぬ立派な奥方てふ美名を得んと力む。何たる暗愚ぞや。

○家庭の何物たるを解せぬ夫は愛物を携へて避暑の客となり、到る處に醜行を演じて神聖なる婦人の節操を汚し去る。引代へて、廣大なる邸宅の一室に屏居し、愛國婦人會の寄附金をなす事と、阿諛者の佞辯を聞く事の外は、全く何もせずに平然たる夫人の境遇、眞にあはれむべき家庭の状態と云ふべきではあるまいか。

○あゝ誠と愛は人生の寳である。濁酒に酔ふ夕顔棚の下涼み、若くば月を待つ椽側の團欒に此誠と愛はあらざるか。

新刊の出版物『男女の研究』

出版元から送つて來た長題の如き書籍を理想的に面白く讀んだ。吾人は元來ダアウヰンズムの信仰者でないが故に、人類に靈ある事を忘れた科學的の冷やかな説明には決して首肯する事が出來ず、又それに依て安心立命を得るやうな事は、思ひも寄らぬ事ではあるが、本書の主旨を見ると、吾人と意見を同うする點がないでもない。これ吾人が科學的に男女を研究せん欲する人に對し、一讀の價値あるものとして茲に特記する所以である。左に書中樞要の一節を録して置かう

「家庭の特色は男女が生殖上の關係に基きたる生活の一致にあり。記者曰く(科學的の筆法は斯くの如く常に露骨なり)されば將來家庭の健全なる組織を見んと欲せば、是非とも夫婦間の結合を中心として成立たしめざるべからず。云々」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯便り

▲月凉し校正了へて歸る時▼

○別に特記して報告するやうな事件はないやうです。只讀者諸君の一家が世の中の流れに染まず、超然として數段の高きを拔いて居るが如く、しかく此暑さに對しても平然とし、敢て惡疫の侵入を許さぬと云ふ調子が、永く續かん事を祈るのであります。吾等同輩の如きも幸にして意たゆまず、專念事業の爲に働いて居ります。

○本號の第十頁の上段に挿入してある注意欄は二三號前から揭げたのですが、あれは諸君の御便宜の爲に設けた事故、何時でも所問を受けるのです。『疾病衛生』の應答は今一回のばします。又あの内『讀者の顧問』欄は堺氏が特に答解の任に當られる筈です。

○此度安藤兎毛喜氏の著書『青年と生存競爭』を本社で取次く事になりました。世間一般の學者は盛んに時流に媚び、只それ生存競爭の福音を傳んとするに日も足らざるの今日、氏は此間に處して一双の清眸、能く勢ひの赴く處を洞察し、窮巷の理累々として山堆せる競爭失敗者に深厚なる同情を濺ぎ、更に轉じて眞の成効なるもの丶何物なるかを、最も親切に敎へたのが、即ち此書の主旨であります。併し私はこの書物を以て只一部の失敗者獨占の慰めと計り定めて滿足は出來ぬ。少くとも私の見る處では、慥に總ての人類に生存の意義を敎へて居る。意義とは何ぞや、至誠である。神に捧ぐる人間の心である。假りに吾人が人生にあつて事をなさんとするもの、此心なくして何するものぞ。至誠に成効も失敗もない。自分もない他人もない――私は此意味で此書物は非常に尊い本だと信じます。（定價二十錢郵税二錢但し本誌讀者には二割引）

○南拔知一君に呈す。御渡韓の途次よりの通信正に拜見、兄の如き厚情の愛讀者を得たるは眞に記者の喜びに堪へざる所也。朝鮮内地の家庭の觀察――嘸面白からん。御通信を待ちます。

○島根縣の錦川漁郎兄へ。高評敢てあたらず、一に同志者聲援の結果なり。勿論永劫にこの光を保たせる積りです。兄が『思ひの記の粹な一節』は是非送つて下さい。喜んで掲載します。本誌は或點に於て趣味あり理想ある全國家庭者の機關雜誌です。

○紀伊KO生に云ふ。早稻田農園で、[illegible]稱[illegible]るさうです。

空前の新著

初版忽ち賣切れ再版出來

帝國理科大學教授理學博士 坪井正五郎先生序文

宮崎縣師範學校長 遠藤正先生
福岡縣中學修猷館教諭 大鳥居弁三君
宮崎縣師範學校教諭 澤田順次郎君
共著

男女之研究

寫眞版圖畫挿入

美麗装釘 全一冊
正價金五十錢
郵税金六錢

本書は科學的研究に基づき男女の起源及び發達、男女の生殖上の差異及之に伴ふ諸現象、男女の形質及び生活上の差異發生及發育、人類生活の發展に伴ふ男女の地位及び其の關係等、苟も吾人人類が相偕に生活する異性の同類を知るに須要なる事項を明快に解説する眞に空前の新著なり。されば世の青年學生諸士、教育者及人の父母たるものは論なく、あらゆる男女自らにとりて如何に本書が貢献する所の多きかは言を要せず。大方の諸賢幸に一讀以て其眞價を了せよ。

發行所 東京神田裏神保町 光風館書店 （電話本局二千三十九番）

會員募集

全國女學生の連合交際機關なり、少壯婦人の智識をねり進歩的の思想を取るは本會に入會するより外なし、明治の女學生第廿世紀以後の女子は須らく本會に入りてその機關『日本女學生』を友とせざるべからず、

會員には『日本女學生』を無料にて分つ

會費一ケ月拾錢（定價拾二錢）

女子高等師範女子師範高等女學校女子大學生その他各種女學校學生女教師等の團結せる進歩主義の團體なり

『日本女學生』の任務は 論説、講壇、名家、意見、案内、百花園、女子社會、學術界、文章交際（女學生議院、意見、文苑、消息、一筆啓上、倶樂部、）肖像交際、附錄（理想の結婚、實料講義、）等なり

少壯有爲の女學生の入學を望む

東京市本郷區千駄木林町一二七

日本女學生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

外科皮膚病 梅毒 痔痳 外科的婦人科尿道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際 出雲橋 加藤病院

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

電話本局八八八番
一三八五番

東洋内科醫院

院長 醫學士 高田畊安

診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷後隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室增設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱
（停車場所在）

南湖院

副院長 醫學得業士 林止

診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後隨時應需、土曜日午後施診

東京麴町區三番町三十番地
（市ヶ谷停車場附近）

高田病院施診所

主任 醫學士 松田三彌

診察 毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需

小兒診察 午前宅診 午後往診

牛込區南町參拾參番地

宍倉織造

（電話番町六百八十八番）

生儀多年濱田博士の助手となり東京產科婦人科病院に奉職中の處昨年同院を辭し左記の處に於て開業致し居候間此段謹告す

▲毎日曜日には濱田病院副院長醫學士辻高俊氏來濱助診せらる

▲入院患者の爲めに病室の設あり

横濱市眞砂町二丁目二十六番地

朝長鷹次郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

帝國貯蓄銀行

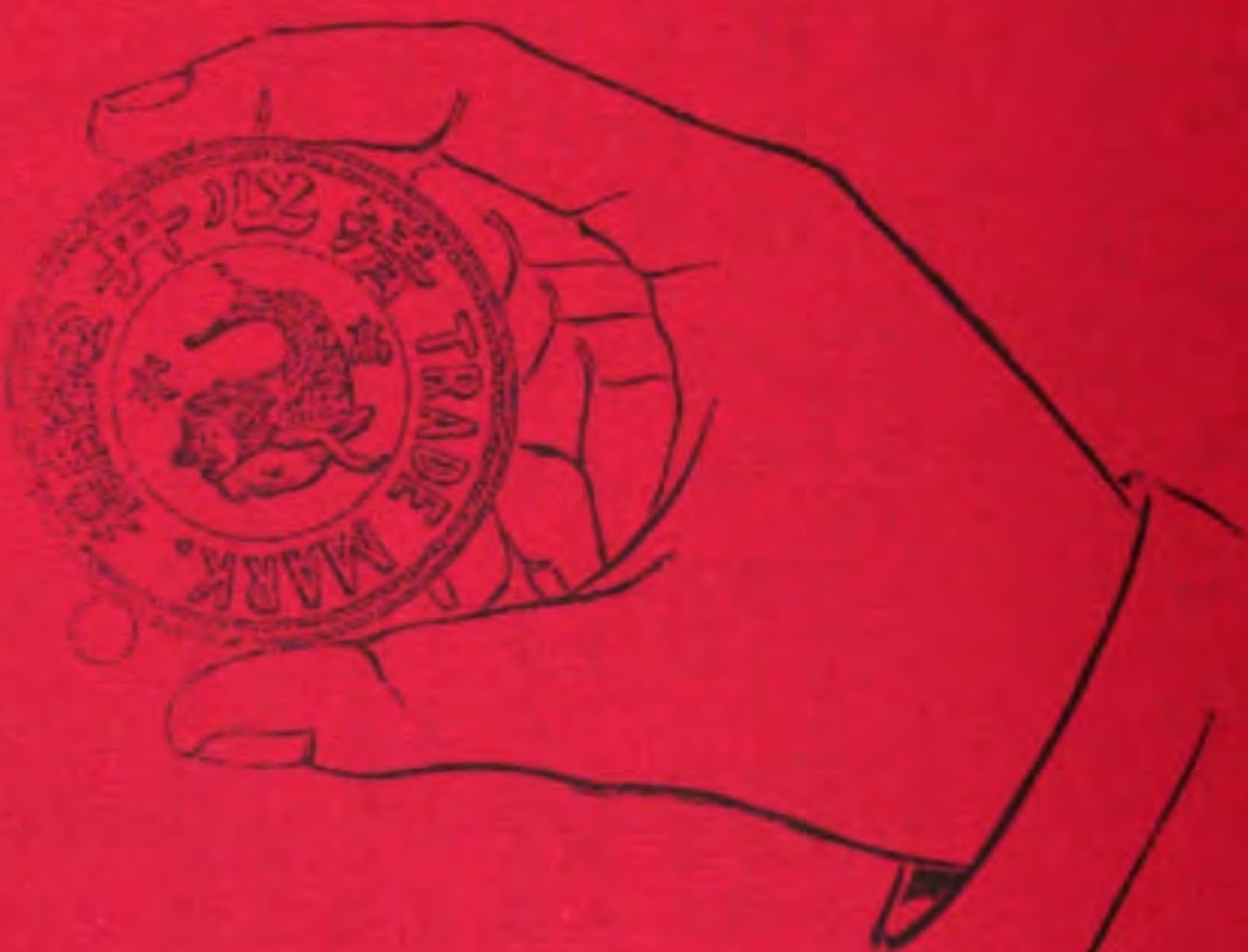
銀座一丁目河岸通り
帝國貯蓄銀行
(電話新橋) 八一六番 二八〇八番

所在地	店名	電話
飯倉四ツ辻	飯倉支店	電話新橋一五七四番
赤坂表一丁目	赤坂支店	電話新橋二〇六八番
四谷大通り	四谷支店	電話番町五一〇番
牛込神樂坂	神樂坂支店	電話番町六三〇番
本郷一丁目角	本郷支店	電話下谷七二番
神田須田町	須田町支店	電話本局二〇七三番
兩國米澤町	米澤町支店	電話浪花二五九〇番
淺草吾妻橋通	吾妻橋支店	電話下谷七三番
南品川一丁目	品川支店	電話新橋一一三九番
橫濱吉田町	橫濱支店	電話橫濱一三〇四番
日本橋坂本町	代理店 田中銀行	電話浪花二四〇番

此清心丹は全國到る所にあり

ニッケル罐入にてポケツトに用に適す

懐中要藥 **清心丹** ニッケル罐入 定價拾五錢



本舗 東京市日本橋區[illegible] 高木與兵衛製

旅行又は平常携帶に便利也

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

美術帯留

一 金具は金白金赤は銀赤銅等にて東西の草木花實其他高尚なる圖案を選び諸名工の彫刻せし物或はダイヤモンド、ルビー眞珠等を精巧に嵌入し紐は錦朱珍絹打等凡て模様の配合に意匠をこらし調進仕れは何卒御用命あらんことを願上候

（金製彫刻金具付正價
（十五圓より五十圓迄
（銀製彫刻金具付正價
（三圓より七圓迄
（寶石入金具付定價
（二十圓以上一百圓迄
（金製及寶石入諸品は店則に因り一々證明書を添附して正確を保證す

東京南傳馬町貳丁目

鼈甲小間物
貴金屬寶石商
美術裝飾品

大西白牡丹

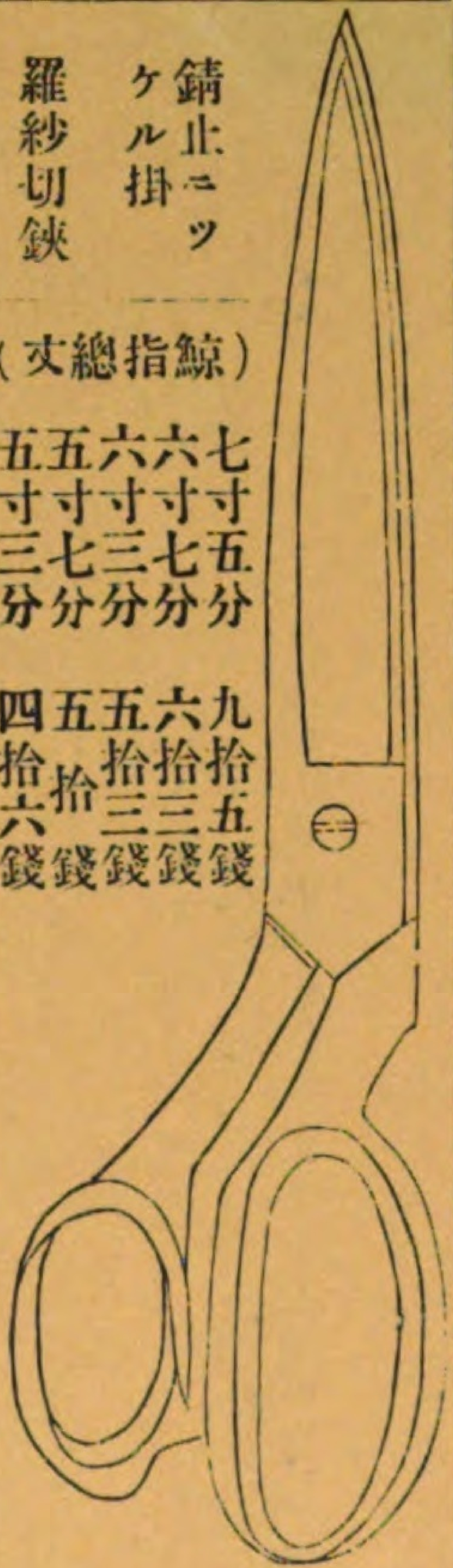
特 電話本局三十番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭用
西洋料理器・菓子焼器
新荷着

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

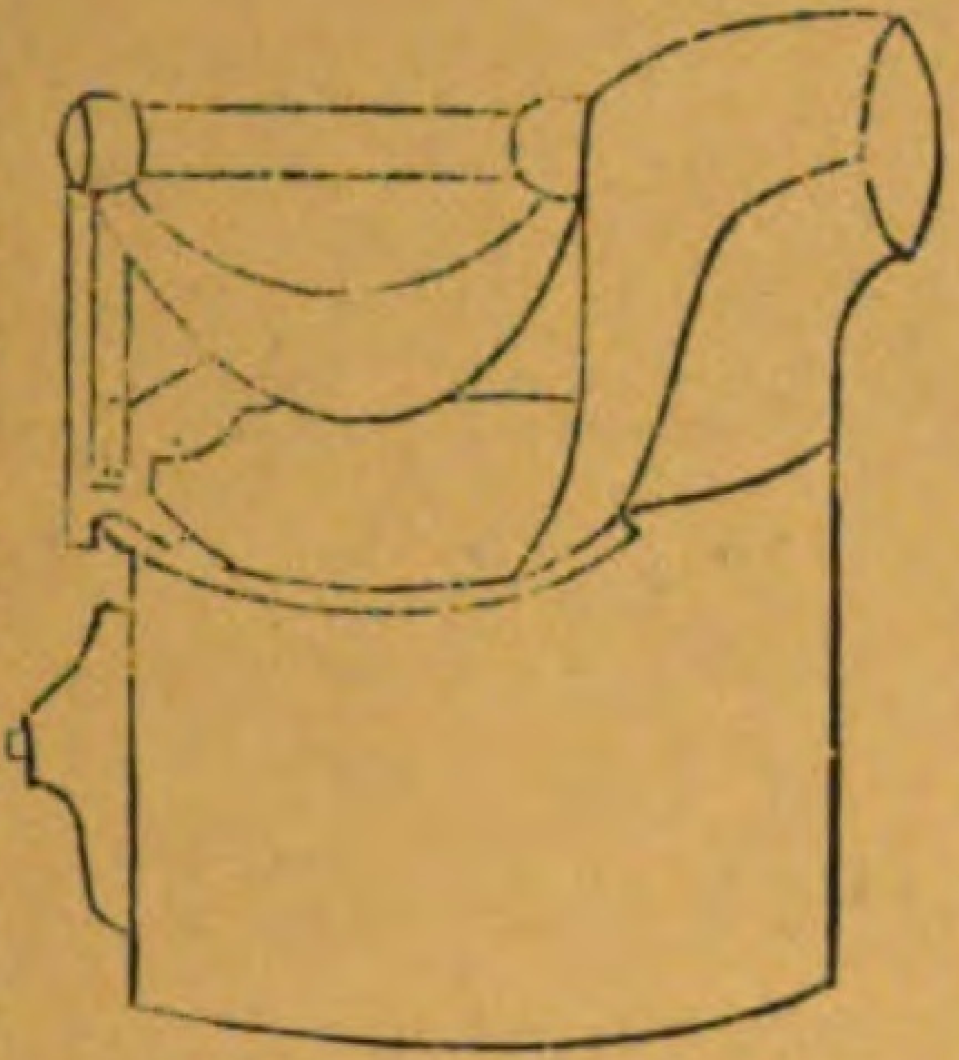
裁縫用打刃物販賣廣告



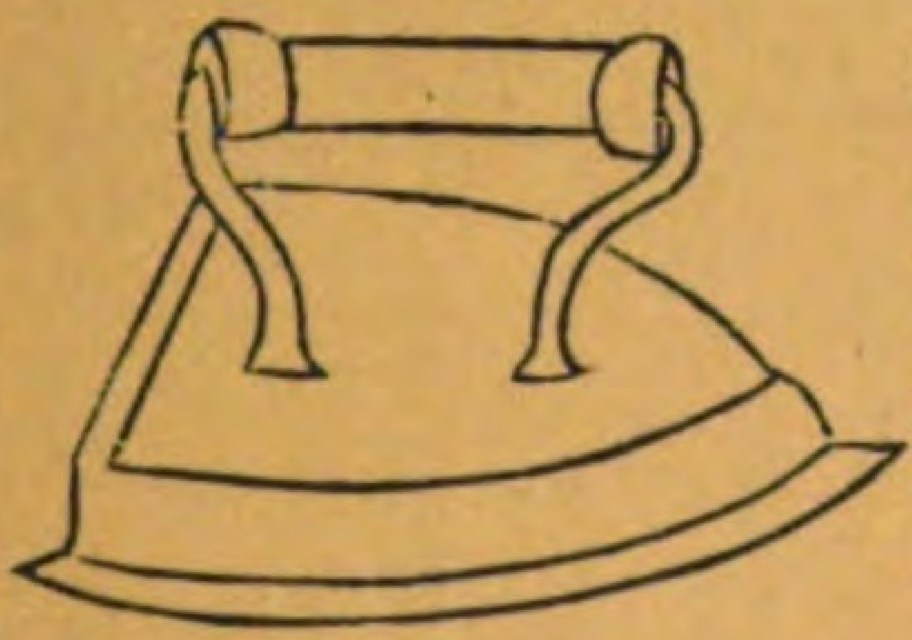
鋳止ニッケル掛
羅紗切鋏

（鯨指總丈）

七寸五分	九拾五錢
六寸七分	六拾三錢
六寸三分	五拾三錢
五寸七分	五拾錢
五寸三分	四拾六錢



アイロン　船來　壹圓八拾錢
　　　　　和製　八拾錢以下

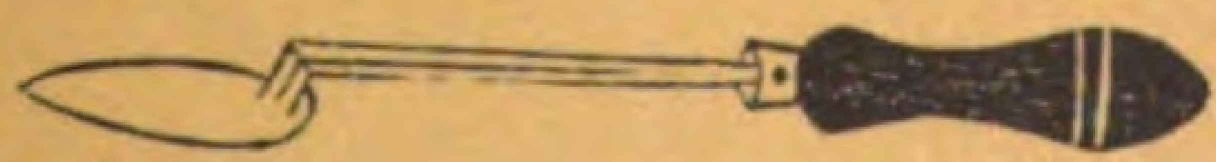


スルメ鏝　船來　七拾五錢
　　　　　和製　三拾錢以下

火熨斗　三河屋形

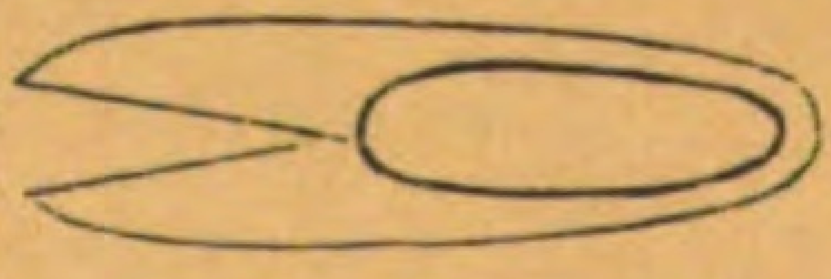
上等	壹圓三拾錢
中等	壹圓拾錢
並等	八拾錢

火熨斗　丸形
五拾錢以上



本磨	三寸五分	廿八錢
仝	三寸	廿三錢
仝磨	三寸五分	拾八錢
仝	三寸	拾五錢
仝	二寸五分	拾二錢

拾錢以下種々



鋏　大小種々

平目打
大小込七錢ツヽ

鳩目打
大拾錢　中小七錢

右ノ外刃物一切有之品質ハ何レモ上等保險付ニ御座候間多少ニ不拘御用向被仰付御用ノ節ハ端書ニテ御註文被下候ハヽ遠近ヲ不論小包便又ハ郵船ニテ御送達申上候ニ付荷着之上現品引替ニテ代金御支拂被下度候也

東京市本郷貳丁目四番地
三河屋　上野金三郎
（電話下谷千二百八十八番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA